



社会福祉法人 御前崎厚生会  
特別養護老人ホーム 灯光園  
電話 (0548)63-3729(代表)  
FAX 63-4131  
灯光園デイサービスセンター  
63-6002  
灯光園在宅介護支援センター  
63-5116  
灯光園居宅介護支援事業所  
63-5115



## 冬に向かって

施設長 澤島久美子

十一月の始め灯光園の南の畑でお芋を掘りました。台風の影響を心配しましたが、今年もいいお芋ができました。

灯光園のお料理クラブは毎月お菓子を作ります。入居者の中からお料理が好きなメンバーが集まり、栄養士と一緒におやつを百個作ります。百個はなかなか大変です。

畑のお芋でスイートポテトパイを作りました。バターと生クリームで練った芋の餡をパイ生地に入れて焼きます。なかなかのボリュームですが、入居の皆さんも職員もおいしそうに平らげてくれます。

月に二回のおやつ作りのクラブは、おいしく食べてもらいたい気持ちがいっぱい。作れることの幸せを感じる場所です。甘いにおいが園内に漂います。

## 寝て起きて我が家の母は…

## 【和洋折衷】

家族会会長 齋藤 友昭

『え？畳？』『そうなんです。

信子さんは畳のほうがよく眠れるのかなって・・・思うのですが。』そうか、畳ねえ。そう言われればここに入居する前までは、母の部屋は和室だったなあ。畳の上に蒲団を敷いて。

以前の母の日常生活がふっと思い起こされます。今以上に快適な生活が送れるならば、畳も良いかも…。灯光園から程近い畳屋さんへ急行。『唐突ですみませ〜ん。洋室のフロアの一部に畳を敷きたいんですけれど。』『わかりました。今から確認しながら一緒に行きましょう。』特殊な計測器で寸法取り。十畳分必要・確認終了。数日後『畳、出来ました。今から部屋に持っていきますが。』母の部屋で待つこと数分、ご夫婦で十枚の畳が運び込まれ、寸分の狂いもなく敷設、完了。的確で、優しく誠

実なご主人と奥様に感謝、感謝でした。畳の厚みは通常の半分

に。これも当園スタッフの『つまりまじきに注意』の一言があったればこそ。言われてみて気が付く私。そうだよなあ…。早速、

母とスタッフの方達の入室、確認。新しい畳のあの新鮮な香りが、部屋いっぱい広がります。

『あ〜いい香り！畳はいいね！』母もにっこり、笑顔で答えます。睡眠は人に安定をもたらします。勿論、その夜から我が家の母は今まで以上にぐっすり〜眠る習慣が。和洋折衷めでたし、めでたし…。

と、ここまでは『なんだ、そんな事か！』とお思いの貴方。そうなんです！私もそう思うんです。なんだそんな事か、と。同感です。ところが、後で、よく思い出しながら考えてみたんです。この【そんな事…】を。人の生活の中には、三つの【配り】があります。【目配り・気配り・心配り】。注意して、不都合がないように、その人への心づかい・配慮をする。遂行す

るとなると容易では無いこの三配り。

恐縮ですが、ここで話は少し遡って：平成二十年二月。今から十年前の事。受話器を取ると母の入居受諾の連絡が！安堵と不安が入り混じったまま、妻共々三人で灯光園へ車でまっしぐら。玄関を入ると担当の方が既に待機中。緊張と少しだけ疲労感の漂う我々に『いらっしやいませ、ようこそ灯光園に。遠路大変お疲れでしたね。今日からは、大切なお母様を私共が責任を持ってお世話させて頂きますので、ご安心くださいね。』優しいその語り口と誠実な態度に触れた我々はその瞬間、灯光園で良かった！と強く心の中で思いました。決してオーバーな言い方ではなく、安心して母を預けることが出来る、妻共々そう確信したのを覚えています。そして十年後の今日まで、その思いは変わりません。えっ？何故かって？それはですね、前述した【三配り】が実存しているから。

今回の、母の部屋を畳にするという私自身考えもしなかった【そんな事】が、スタッフの真摯な三配りのお蔭で、母も私も更に安定した生活を送る事が出来ています。入居者の以前の生活状況を、嗜好を趣味を・・・詳細に聞いて知って、理解する。その人の人生を何よりも大切にし、その人に合ったケアに心を配り、要望に応える。

少々乱暴な言い方になりますが、当然、介護に関する一通りの知識・判断・対応の方法論はスタッフの全員が熟知していますが、それ以上の机上論は、私は、ここ灯光園には必要が無いと思っています。

何故ならば、【スタッフ全員に、積み重ねの努力と創意工夫があるので、マニュアルが無くても大丈夫】と。過言ではないと、私は思います。

ではこの辺で筆をおいて・・・今日もいい日になりますように。

「在宅生活の応援団」④

### 災害に備える

灯光園居宅介護支援事業所  
ケアマネジャー 瀧口 美千代

「喉もと過ぎれば熱さ忘れる」の言葉のように、災害を見聞きする中で「早く準備しておかなければ」と思いながら、具体的にはなかなか進まないのが現状です。

今年の台風二十四号の停電時には電気のない生活を初めて経験しました。

最初に心配になったのは、電気を使う福祉用具（特殊寝台、吸引器、在宅酸素等）を使っている方の体調です。

次には、独居や高齢者二人暮らしのお宅が、生活できているかや各デイサービス事業所の被害状況と復旧の見通しの情報収集など、各課題に対応する必要があります。

今回は停電という被害だけでしたが、これが地震の被害でな

くて良かったと思います。

改めて、発電機や充電式の福祉用具など各家庭で準備できる事、地域の方に協力してもらえ、医療や行政との連携の事など多くの課題があり、私達ケアマネジャーのできる事は何か考えさせられました。

私達の仕事は、利用者さんが生活していく為の支援が円滑に進み、生活が安定したり向上したとき、やりがいや達成感が得られます。

災害時にも利用者さんに必要な情報を提供できるように、常に社会や地域の状況に目を向け、もちろん一人ですべてを解決できるわけではないので、他職種の力を借りたり、適切な機関につなぐ事ができるように、アンテナを高く、顔の見える関係作りを心がけたいと思います。



**大雪**

立冬を過ぎ小雪、大雪（12月7日）と続いて冬至になります。今が一番、陽の短い頃。夜長に何をしましょうか。



# 認知症のはなし2

## ご存知ですか。

### 疑似認知症

在宅介護支援センター

若林佐登江

「疑似認知症」という言葉があるそうです。高齢者が昼間にうつらうつらしてぼんやりしてくと、周囲の人は認知症が始まったと思うことがあります。このような状態を「疑似認知症」と呼んでいます。触れ合いや刺激が減ると認知症へ移行するところがあるとされています。

朝ごはんを食べたことを忘れるのがアルツハイマー型認知症の症状のエピソード（出来事）記憶障害です。何を食べたのか思い出せないのは老化による物忘れと言われます。記憶の障害は生活に必要な行為を目的に合わせて進める事が困難になります。自分の名前が思い出せない、散歩に出かけると帰る家

分らない、洋服の着かたが分からないと、生活に支障が出てきます。ぼんやりは認知症ではありません。だから「疑似認知症」です。が、その先には認知症があるかもしれません。

外にしよう、

おしゃべりをしよう

一昔前であれば縁側で高齢者がおしゃべりという光景もありましたが、今は縁側がありません。老人クラブ、グラウンドゴルフと外へ出る機会を持ちましょう。新聞のクイズに応募して外と繋がります。趣味を3つ持つと認知症リスクが下がると聞きました。今からでも遅くはありません。何か始めませんか。散歩はいかがでしょうか。灯光園でひと休みです。入居の方とおしゃべりをしませんか。



## ボランティア活動

～あいがとう～

### 灯光園

○八月

田代先生と

御前崎子供茶道教室様

(家族会喫茶茶道披露)

○十月

乙坂 昇平様

乙坂 和子様

大澤 晶子様

小野田 薫様

(家族会喫茶演奏)

○十一月

静岡銀行 御前崎中央支店様

御前崎支店様

(チューリップ植え、芋掘り)

日赤奉仕団御前崎地区の皆様

(草取り)

### 灯光園デイサービス

○十月

川口 節子様

(絵手紙)

鈴木 喜夫様

(俳句教室)

松下 肇様

(ハーモニカ演奏)

○十一月

川口 節子様

(絵手紙)

鈴木 喜夫様

(俳句教室)

やまぶきの会様

(傘踊りなど)

## 編集後記

いよいよ今年も終わりに近づいてきました。みなさんはクリスマスや大晦日、年越しの予定は決まりましたか？灯光園では昨年引き続き、イルミネーションが点灯しています。ぜひ見に来てください。

\*前回、八月ボランティア活動の一部を掲載し忘れてしまいました。今回掲載すると共にお詫び申し上げます。

一回 一回 二回 一回 一回 二回 一回 一回